慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	経済時事評論
Sub Title	
Author	安川, 貞三
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1918
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.12, No.7 (1918. 7) ,p.1016(142)- 1027(153)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑録
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19180701-0142

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

居る、また第一銀行は大正元年下半期五年下半期に增資して居るが、こは他の銀行を買收して增資したので取引所相場には關係ないから、大正二年下半期の增資の時を見るに、大正二年上半期には秘密積立金五百三十一萬あつたものが同下半期には一萬三千圓に大激減を告げて居る（一七頁參照）、かくの如く日本勸業銀行及び第一銀行が增資の度毎に秘密積立金が激減する、わけはないのである、たゞその株券が新株落なる爲め下落してかゝる數字を呈するに至つたのである。

かくの如く論じ來れば博士が取引所相場を秘密積立金推算の前提とせられたるに無理ではないだらうかと思はざるを得ないので、茲に博士の御高敎を仰ぐ事とした次第である。

安言多謝

經濟時事評論

安川貞三

利己的思想と皮相的經濟思想　靜的狀態の下にある封鎖的國民經濟に就いて云へば國民の幸福のよつてかゝる所は其社會に於ける財貨の存在量であつて貨幣の多少は之と何等の關係を有するものではないが、而も一個人の立場から云へば此關係は全く異ならざるを得ないのである蓋し營利の手段としての貨幣の作用を度外視するも貨幣の所有高の多少は直ちに其社會に於て當時存在する財貨に對する當該貨幣所有者の支配權の大小を表はすものであつて其幸福の大小を決するからである。茲に於てか拜金思想の起る亦已むを得ないのである。然るに此際凡ての人の貨幣所有高が均一の割合を以て增加するに於ては財貨の存在量の增加せざる限り決して一個人の幸福は增加しないのであつて、かゝる場合に特に己れ一個の幸福を計らんとするには他人を排して己れ獨り最も多くの貨幣を獲得するの必要があるのである。茲に於てか此の理由を意識せるとせざるとは別問題として我利我利主義は發生せざるを得ないのである。斯くの如くして勞働の成果を掠奪する資本家もあれば、世人の命の糧を買占めて迄も自己の懷を肥さんとする投機師も出づるのである。而して此の理論はかゝる人々の集合より成る國民經濟に於けると同じく又各國より成る世界經濟の上に多少の制限の下に適用せられ且かゝる自己本位の思想政策は極度に發揮せらるゝのである。則ちもし各國の交易に甚だしき障害なきものとせば一定時に於ける世界人類の幸福は其當時世界に存在する財貨の量により限らるゝのであつて而して此の財貨を何れの國が比較的最も多く之を利用し幸福を受くるを得るやは其國の所有する世界的財貨に對する支配權によりて定まるものである。茲に於てか重商主義的思想政策は行はれざるを得ない。

斯くの如きは是れ交易經濟組織下に於て已む可からざる現象であるけれども、而も交易經濟なるものは決して極端なる一方的我利我利主義の下に行はれ成立し得可きものでないのである蓋し交易經濟の下にありて其眞髓をなす營利行爲を支配するのは自給經濟の下に於けるが如き慾望ではなくして實は購買力を伴ふ慾望即ち需要であるからである。此の故に營利行爲なるものは他方に購買力を有するものありて始めて營利として成立するものであつて、他人を壓して己れ一人利せんとするは交易經濟の性質上許さざる所なのである。只今日の社會に於て屢々一

部の事業が勞働者に不當の賃銀を與へ、又は過大の代價を以て尙よく繼續して莫大の利益を擧げつつある所以は（一）國民經濟が吾人の前提としたる封鎖的狀態の下にあらずして一國の生產物は之を外國に輸出せられて其地の購買力を有するものに賣却せらるゝこと、（二）國內にありては他の事業に從事する企業家及び勞働者の購買力あるが故に外ならない。故に吾人若し我國民經濟が封鎖的の狀態にあるものと假定し且つ農民不作の爲に購買力なく、勞働者亦物價騰貴又は賃銀低落の爲に購買力衰へたりと假定せんか豈企業家獨りよく利潤を擧げ得る理由があらうか。是れに反して穀價騰貴して農家の所有增加し勞銀上りて勞働者の所得亦增加せんか企業家利潤亦自ら騰貴するのである。かの農業國に於て農作豐かなる時は工業家及勞働者共に利益を受くるは故なきでないのである。此を以て觀れば拜金主義の實行即ち營利は只一方に金を所有するものあることを前提として始めて成立し此の貨幣を有するものを相手として始めて成功するのである。然れども世には屢々己の利を追ふに餘りに急にして相手方の購買力如何を省みざる者が多いが、斯の如きは決して其目的を達す可き所以ではないのである。交易經濟はあくまで相互利益を主眼としなければならぬ。

然るに近時吾國には我利我利主義に基く經濟思想瀰漫し今日の經濟が流通經濟なることを忘れて、經濟の一面のみを見て亦他を顧みざるものがある。名づけて跛行的經濟思想又は皮想的經濟思想と云ふ。今かゝる偏面的經濟思想の發現又はかかる皮想的思想より出づる政策の代表的のものを見んか蓋し少なしとしないのである今左に其主なるものに就て順次論評を加へて見やう。

旺盛なる哉企業計畫　黃金の洪水と云へば多少大袈裟かもしれないが兎に角大正三年末三億四千萬圓に過ぎなかつた我國正貨の所有高が約六億の海外放資をした今日尙十一億の巨額に達したのを見れば歐洲戰爭は我國の長年渴して居た黃金慾を充たしてくれたのであつた。斯くて此貨幣を如何に處分す可きやは開戰以來間もなく一個の問題として一時我經濟社會に於ける議論の焦點となつたのである。而してかの正貨の資本化又は所謂生產第一主義なるものは此の問題に對して我政府當局の與へた解答であつた。爾來其經濟政策は此の方針に左右せられ勃興し來れる企業熱に對し何等の警告を與へさるのみか却つて之を助長したのである然かり而して此方針は今尙自給自足の經濟政策として朝野の間に是認せられてゐるのである。

見よ大正四年一月より本年四月に到る間に企劃せられたる事業資本の總額は三十三億五千萬圓の多きに上つたのである。就中本年一月より四月に到る四ヶ月間の總計丈にても既に八億三千六百萬圓に達して一昨年一ヶ年の總計より多きこと實に一億七千八百萬圓に上つて居る、更に之を日露戰爭後企業熱勃興の最高度に達したる明治四十年の六億七千萬圓に比するも僅か四ヶ月にて既に一億六千萬圓以上を出づるのであつて此の勢を以てすれば本年度の事業計劃は昨年度の十五億を遙かに超過するであらう。豈驚く可き企業熱の勃興ではないか。一ヶ年十五億二十億の事業計劃は我國に於ては前代未聞の事であつて此を以前に於ける事業熱勃興の頂上に達したる年に比するも尙二倍三倍の多きに達し最近に於て事業計劃の少なかりし年に比すれば實に十倍より十五倍の多きに上るのである。斯くの如きは是れ果して健全なる事業計劃と目す

ることが出來るであらうか。我大藏大臣勝田主計氏は去る五月一日大阪に開會せられたる關西銀行大會に臨みて一場の演說を試みたるが其一節に於て氏は現時我國の經濟界が堅實なる基礎の上に發展しつゝありとの所信を述べて、本年度に於ける企業計劃の旺盛に言及し此を以て此經濟狀態を卜知する一事實なりとなし、更に事業家が將來を危惧して萎縮するなからん旨を述べて事業界を激勵したのである。誠に藏相が積極的に我國の事業の發達を鼓舞激勵しつゝある精神に到りては何人も此に贊同するを惜しまないであらう。希くは獨逸に於けるが如く我國にも產業大に起りて經濟的立國の基礎を鞏固にし而して年々增殖しつゝある人口を維持するに到らんことは吾れ人共に希望して已まない所である。然れども產業の發達を期するには其產業を維持するに足る基礎地盤がなくてはならぬ。此の基礎、地盤なからんか事業計劃は縱令經營技術の上に成功するも猶企業として成立する能はず結局資本の浪費とならざるを得ないのである果して然らば今日我國の經濟社會は果して此數十億の事業計劃が事實上に表はれた時企業として成立せしむるを得る基礎地盤を有するであらうか、吾人は之を肯定するに苦しむものである。

生產力と消費力の權衡　思ふに今日の事業が其存立を維持せんが爲めには購買力ある一般公衆の存在することを必要とするものである然るに今日の如き巨大の事業計劃が假りに事實上企業として世に出づるに於ては果して如何なる結果を生ず可きか。思ふに今日事業の好景氣のために原料器械に對する需要は大となつた結果此種の企業が今日大に計劃せられてゐる。而して此等生產資料を生產する企業資本は今日株式及び社債の募集によつて國民の貯蓄を以て充てられてゐるのである。而も國民の貯蓄が此の種の事業に投ぜらるゝに從ひ此の種の生產資料に對する需要は減少せざるを得ない。特に器械の如きは一度買へば再び購ふを要せざるものである更に亦此等の國民の貯蓄よりなる企業の拂込資本を以て外國より原料器械を輸入するに於ては特に國民の購買力は減少せざるを得ない。加之物價騰貴の結果として既に業に一般消費者の購買力は減少しない迄も甚だしく增加してはゐないのである。況んや定額所得に依つて衣食する中流階級に到りては生活難をすら訴へてゐる際である。よし假りに購買力の大に增加したるものありとするも我國民が平時一ヶ年の十五倍二十倍の上に上る事業資本（勿論一時に全額拂込まるゝものに非ざるも）より生ずる生產物を消費し能はざるは從來の比較經驗の上より此を推測する敢て難しとしないのである。果して然らば今日以上の如く尨大なる事業計劃が事實の上に成立するに於ては茲に所謂有效需用と生產能力との不權衡を來して當然恐慌を誘致せざれば已まないのである。特に我國に於ては本年度に募集す可き公債は四億の高に上るのを見れば將來國民の消費力は益々減少するものと目さゞるを得ないのである。

以是觀是今日一般國民特に其大多數を占むる勞働者及び農民の購買力を增加せしむるは是れ企業熱に伴ひ易き恐慌の勃發を防ぎ新設企業の命脈を保たしむる所以であつて極めて必要のことに屬するのである。然るに政府は企業の勃興過度に到るも尙何等の政策をとらず暗に之を煽動しつゝあるにも拘はらず他方に於てなす所は往々一般消費者の購買力の增進を抑壓せんとなしつゝあるのである。例之かの勞働者が賃銀引上げの要求を貫徹せんが爲め少しく其團體的勢

力を利用せんとすれば直ちに種々の口實の下に警察官を派遣して暗に彼等を威嚇するが如き、又は國民の大多數に生活難なく、一部の生活難あるも此等は外米の消費によつて其生計に支障なきにも拘はらず尙正當の需給關係に基く米價に干渉して農民の利益を無視せるが如き何れも皆是であつて、蓋し反面的經濟思想に囚はれてゐる結果と目さゞるを得ないのである。斯くの如きは是れ新興企業の勃興を煽動しつゝ之を魔の淵に導きつゝあるものであつて延いて我國の經濟界を混亂に陷らしむるものではなからうか。

更に企業熱勃興の結果は勞働に對する大なる需要を喚起して勞働賃銀は騰貴せるざを得ない然るに他方には政府が農家の利益を壓迫すること今日の如くんば遂にはかの十九世紀の末葉歐洲に見たるが如き所謂ランド・プライトの甚だ

しき現象を呈して農村の疲弊を來し、以て當局の食物自給政策と矛盾を生ずるに到らざるなきか事の善惡は別として蓋し一個の問題たらざるを得ないのである。

輸出增進と自給自足の經濟政策　固より新興企業の販路は必らずしも此を國內に求むるを要せず、否寧ろ大に國外に輸出して國內經濟の發達を期す可きである。而して外國貿易を盛んならしめんとせば或る程度迄國際貿易を自由ならしむることを必要とするのであつて妄りに保護關稅の障壁を高くして排外政策を採ることを許さないのである。自國市場は他人に一指をも觸るゝを許さずして已れ獨り他國市場を侵略せんとするが如き到底事實の上に行はる可きものではない。此事が經濟上の見地より見ても到底永續す可き性質のものではないことは既に吾人の前述した所である。只當該輸入國が第三國に對して常に輸出超過の關係に立つに在ては此事必ずしも經濟上不可能に非ざるも而も一國が他國よりの輸入を許さずして只輸出のみ增加せんとするが如き既に感情の問題として許されざるを如何せん。必ずや復讐關稅の報を受くるに至る可きものである。現に此度の戰爭に於て英佛各交戰國が比較的需要の緊切ならざるものに對しては其輸入を禁止又は制限して自國の經濟力の維持に努め且は中立國が漁夫の利を占むるの道を杜絕するの政策に出でたるのみならず、米國の如き有り餘る正貨を有する國にして尙且かゝる政策を採用するに到りたるは亦以て利己的經濟政策の行はる可からざる實證と見ることを得るのである。然るに我當局の如き開戰以來絕えず一方に自給自足の經濟政策を主張しながら、他方には海外輸出貿易の發展を唱へて已まないのである。斯の如きは是れ當面の急を見て只自己に都合よき政策のみを考へ而して不識不知の中に矛盾に陷れるを覺らないのであつて亦以て現代に於ける交易經濟の眞意を解せざる皮想的經濟思想を表白せるものに外ならないのである。吾人を以て見れば我國の如き或る程度迄關稅の障壁を低くし或は關稅政策を利用して新興企業の販路を維持し更に擴張するこそ却つて國力不相應の新興企業に活力を與へ其命脈を保たしむる所以であつて亦以て經濟的立國の基礎を鞏固ならしむるの道と信ずるのである。

對支那放資　新企業維持策として海外放資特に支那放資は必要缺く可からざる政策に屬するのである。蓋し我國の如く天與の富源に乏しくして現代工業の主要原料たる鐵、石炭、羊毛等に缺乏を訴ふる國に於ては此等原料を產する國に對して適當なる放資をなして其供給を確保するは是れ工業成立の要件をなすものであるから

である。然るに幸ひ我國と一葦帶水の隣邦支那は是等諸種の富源を無限に藏する國である。茲に於てか近時我國に於て此の支那の利權に對し殆んど熱狂に近き無遠慮なる獲得運動を生じた而して此事は我國工業延いて一般經濟否國運の盛衰の懸る所であつて見れば我國としては必至の運命なのであるけれども而も第三者として考ふれば云はゞ食事に向つて垂涎せる犬の如き觀がある支那人が自己の懷を狙ふ此の利己的行動に對して反感を懷くも亦首肯せられないことではないのである。然れども斯の如きは支那人自身の偏見であつて外資輸入は決して輸入國の利益を害するものでないことは米國の例が此を示して餘りあるのである。支那か米國に比す可き富源を有しながら今日尙ほ未開の域にあるは後者の外國資本を歡迎したるに反し前者が常に狹量にして之に反對したるに職由すること大なるのである。此がために支那が中立國たる地位にありながら米國又は日本の如く此千載一遇の好機會を利用する能はず將來尙長く弱國として甘んじなければならぬ運命に陷つたのである。支那人諸君たるもの豈反省せずして可ならんやである。更に日本人としても明治十年二十年代に於ける我國人の外人企業に對する反對熱が今日吾人の想像し難き程度に達したる事實に省みて徒らに無遠慮なる言辭を弄し又は利己的行動に陷らざるやう愼しむ可きである。要するに交易は飽く迄も相互利益を目的とし互讓の精神を以て行はなければならぬのである。

閉却せられたる對支那放資の一方面と支那人の購買力　然かり利權獲得を目的とする對支放資が我國工業の發展特に新興企業に低廉なる原料を供給し其生產物の販路を開く上に於て極て必要なるは論を俟たざる所である。而して此點に於ては近時我朝野の間に其必要の唱導せられ其活動亦稍々見るに足る可きものあるに到りたるは吾人の滿足して措かない所であるが、而も其聲餘りに高きが爲めか世人は企業的對支放資とさへ云へば直ちに石炭、鑛山其他の利權の獲得企業を聯想し亦他方面の對支放資を思はざるの觀がある。而して此の閉却せられたる一方面こそ我新興工業の命脈を維持せしむる上に於て最も必要のことに屬するのである。然らば此の閉却せられたる一方面とは何ぞ、曰く支那人民の購買力の增進を主眼とする對支那放資是である。蓋し我新興工業の生產物を日本內地の購買力を以て消化し能はずとせば、其販路は之を海外市場特に支那に求めざるを得ないのである。而も此の目的を達する爲めには支那人の購買力を增加せしむることを以て最も必要とするのであつて、そは轉て我が輸出貿易を增加する所以となるのである。支那人の購買力を增進せしめずして只徒らに利己的思想に驅られ輸出貿易の增加を計るも到底其目的を達し得るものではない。此點から云へば支那內地の產物を日本人の手によりて之を諸外國に輸出するは極めて策の得たるものと云はざるを得ないのである。或る信賴す可き筋の調査によれば今日支那に於ては如何なる寒村僻地と雖も日本品の普及せざる所なしと雖も而も尙苦力其他未だ日本品を使用する能はざる支那人が甚だ多いのである。而して支那人にして我日本品を使用しつゝあるものゝ數は漸やく支那人口十人に付一人位の割合に過ぎないとの事である。果して然らば支那人口四億の內今日日本品を使用し居るものゝ數は約四千萬人であつて、殘り三億六千萬人は此に購買力すら與ふれば將來日本品を使用する人々であるさすれば我が對支輸出貿易が今日の二倍三倍

となる敢て難しとしないのである。是れを思はゞ我新興企業の前途洋々たるの觀なきに非ずである。然らば此の支那人の購買力は如何にして增加せしむるやと云ふに蓋し支那內地の農產物其他の原料を世界市場に紹介し之を輸出するに如くはないのである。見よ、かの戰前獨逸が二億馬を投じたる青島に對し我輸出貿易が非常の隆昌を來たし青島輸入貿易の第一位を占むるに到つたのは是れ實に獨逸人及佛國人が山東省に於ける落花生、繭紬、棉、羊毛、獸皮等を海外に輸出して此の方面の購買力を增加した結果ではないか。更に又今日南北滿州に產する大豆、豆油は我國某會社が英國其他の市場に紹介したるために今日同地の一大產物となつたのであるが、同方面に於ける購買力增加の結果は此地方に對する我國棉絲雜貨輸出貿易の大盛況となつて表はれて來たではないか。但諺の「情は人の爲めならず、廻り繞りて己が爲め」と云ふのは獨り社會に於ける道德律たるばかりではない。經濟上に於ても亦眞たるを失はないのである。況んや支那の天產物を世界市場に紹介するは我國人にとり一つの有利なる企業たるに於てをやである。對支放資とすら云へば只一に利權の獲得に向ふ盜猫的根性にのみ囚はれず此方面に對支大企業の發展せんとを希望して已まないものである。只利己的觀念に支配せられて正面より輸出貿易の增進を期したればとて思ふ儘になるものでない。正面攻擊より側面、背面の攻擊の常に有效なる事實を省みなければならぬのである。再言す交易は常に相互利益を基礎とせざる可からずと。

今や我社會には拜金、成金、射倖、利己、火事泥的思想の磅礴たるものありて、一世の人心を支配せんとするもの〻如し。茲に於てか朝野各人士の言行亦往々利己的排他的となりて又他を省みず、其政策も常に事の眞相に觸れざるの悵みがある。則ち本文のある所以である。

理財學會々報

●理財學會春季大會　六月四日午後二時大講堂に於て開催す。定刻高城敎授の開會之辭に次ぎ、左記諸氏の講演ありたるが、雨天なりしにも拘らず、非常なる盛會なりき。

一、米國に於ける黑人種之現在及將來　北澤新次郎君
一、デモビリゼーション　堀江歸一君
一、米國聯邦準備金銀行に就て　米山梅吉君
一、世界之大勢　田尻稻次郎君

六時過閉會し次で萬來舍に晩餐會を開く。古內幹事の挨拶、田尻市長の答辭ありて後、一同食卓を圍みつゝ歡談を交へ、八時近く散會せり。晩餐會出席者次の如し。

田尻市長、北澤敎授、塾員松尾清次郎氏、鎌田塾長、堀江敎授、高城敎授、三年幹事大谷、石田、二年幹事中津、青木、奧谷、古內、奧井、佐藤、一年幹事、里見、三木、矢代、吉田、橫田、